

2024年1月25日

大府市役所 202,203 会議室

参加者 大府市長 岡村秀人／教育長 宮島年夫／教育部長 浅田岩男／
学校教育課長 大山容加／放課後係長 水野恵朗／放課後係 主任 永井一輝
大府市学童保育連絡協議会 会長 鈴木敬升／同左 事務局 小林裕嗣
冨田麻衣 久野舞
／どろんこクラブ 保護者 蟹江史也 /同左 支援員 井村弘美／
わんぱくクラブ 保護者 上野智博 小山内祐美子 安藤その美／
同左 支援員 佐藤和己／同左 金田知久

◎岡村市長挨拶

日ごろは子ども達のために運営ありがとうございます。

先日急遽どろんこクラブにお邪魔して大歓迎を受け、うれしく思う。引越し、移転が気になっていた。いいタイミングで、お邪魔することができ、いい育成環境のところを皆さんお探しにかいぎsなって、のびのびと遊んで勉強していて、一安心した。場所の他にいろいろ課題があるうかと思う。公設、民間お互いにいいところを学び合って、さらにいい健全育成事業を進めていく必要がある。情報交換の機会は大変重要。有意義なものにしたいと思っている。

◎大府市学童保育連絡協議会会長挨拶

日ごろは、大府市学童保育連絡協議会の活動及び学童保育所へのご協力ご理解、いつもありがとうございます。

県下で、保育料の負担が大きいという市民の意見から、事業者の公募がされたという事例を聞いた。長年その市の放課後クラブを支えてきた NPO 法人から、全国で放課後クラブを展開する企業が優先交渉権を握るに至ったという。大府市は、民間学童を選択肢の1つとして理解していたに感謝している。運営主体で利用者である父母と民間学童を支えている支援員の声をお届けできる場を、昨年に引き続き設けてくださって感謝する。

どろんこクラブが、市長はじめ、担当課の皆様にご協力いただいたことで昨年の12月に若草町へ引っ越すことができた。すでに現場も見させていただいたが、経過をご報告させていただきたい。合わせて大府市の子ども達の豊かな放課後についてお話させていただければと思う。

◎自己紹介 ※省略

◎どろんこクラブの引っ越しの経過報告について（小林）※資料をもとに説明

◎意見交流

佐藤：どろんこクラブの引っ越しについて、教訓として実感したこと、一つ目に移転先を見つけることの大変さ、二つ目に物の移動、三つ目に保育室として改修すること、備品を整えていくことの大変さ、多大な労力と費用が必要。解散、なくなってしまうのではないかと思うこともあ

た。それを乗り越えられたのは、市長の応援が大きかった。そして、民間が作ってきたつながりが大きかった。民間学童保育所、どろんこ40年、わんぱく30年は、子どもと父母と支援員みんなで作る保育内容を大切に、子どもをまん中に子どもに寄り添い、家庭的な学童保育を大切に、父母保護者が連携して学校や公民館など地域の方と連携をし、「共同の子育て」というスローガンで、実践してきている。そういう中で生まれたつながりが大きな力を発揮した。

公設放課後クラブが全小学校区にできた。「待機児童を作らない」「留守家庭、共働き、ひとり親家庭の生活を守ろう」という方針でやられている。学童保育に限らず、子ども子育てに関することはこれからも、もっと子どもをまんやかに、子どもの個性や発達に合わせて実施されるべきだと考える。民間学童保育所はこれからも「選択肢の1つ」となり、公設と民間が両輪となって、留守家庭の子ども、家庭の生活も守っていききたいと考える。

ここは自慢したいところだが、民間では、30年40年の歴史の中で、たくさん子ども達が、中学、高校、大学生になって、夏休み冬休み等にボランティアに来てくれ、保育協力に入ってくれる。今日は体調不良で欠席しているが、社会人になって、学童保育指導員となって支える側になって戻ってきてくれているOBもいる。地域に住む父母の方、父母のOBの方がみんな集まってくれて、引っ越しについて一緒に考えてくれた。こんなつながりを大事にしたいので、これからも自立した運営ができるように努力は続けるが、民間学童保育所の在り方として、移転の問題は努力を上回ってしまう大きな課題と感じた。移転を繰り返さなくていい保育施設の確保について、移転しなくてすむ場所について、引き続き相談させていただきたい。

私は、子ども食堂を含む全世帯型サロンの「キュリオス」という地域のグループにも参加している。大府は地域にそのような活動をしているグループがいっぱいあるということを知った。「三つ葉」というグループも不登校になっている子どもたちの居場所をつくらうと活動されている。中高生のたまり場、フリースペースを作りたいという声もある。大府市は、そんなすてきな活動が多くあり、エネルギーがすごいと思っている。つながりを大事にする、「みんなで作る大府市」になるといいと考える。僕は、民間学童保育所で指導員として40年仕事をしてきたが、やはり学んだことはつながりの大事さ、その素敵さを学んだと思っている。

小山内：どろんこクラブの移転の話聞いて、わんぱくクラブも他人事でない。わんぱくも5年前に一度引っ越しをした。その時も、引っ越しが決まってよかった、場所もそんなに離れていない場所に決まって本当によかったと思った。思っているのは親だけでなく、うちの卒所した子ども達も感じている。うちは、中学生と高校生が1人ずついるのだが、まだわんぱくを自分の居場所だと思っている。長期休暇になると、ちょっといってくと遊びに行く。今は弟がいるので、弟を見がてらいろんな子ども達と遊んだりしている。遊びに行くだけでなく、支援員さんに連絡して、ちょっとごはんを食べに行くと言って、高校生は進路の相談もしている。親や先生は縦のつながり。友達は横のつながり。わんぱくのつながりは、ちょっとちがう斜め方向のつながりだと思う。だから子どもも居心地がいいのかなと思っている。だからこのような場所が引っ越しなどでなくならずに、子ども達がいつでも行きたい相談したいと思ったときに行けるところにあって、そして、そこにあれ？行ったけどぜんぜん知らない人がいたではなくて、久しぶりよく来たねと知っている人が迎えてくれるという。そういう環境がすごく子どもには本当にうれしい、ありがたい、自分の居場所だと思えるところが地域あるということ。今度もその地域で活動できるよう、どろんこもわんぱくも存続できたらいいなと願っている。

安藤：わんぱく一年生、今年から入った。私自身も出身が違うので、孤独というかなかなか相談

できる人たちがいない中で、わんぱくに入った。子どもも友達が増えた。親も先輩のお母さんお父さんたちと相談ができ、支援員にも相談でき、教育に関して子どもの成長に対して気軽に話ができる。学校の先生とはまた違う、尊敬できる、日々の話ができるという場所になっている。自分の居場所、子どもの居場所。子どもと親の自分が、同じところに居場所がある。居場所があることが心強く、今も通わせてもらっている。支援員さんも子どものことを本当に密に見ていただいている、良くも悪くも外面なく、本音で、暮らせている。「第2の家」だと思って来てねと入所説明会で言われて、本当にそのように対応してもらっている。私も一緒に「第2の家」と感じている。お母さんたちもつながりがあって、先輩たちの話を聞いて、30年もやっていたという歴史も感じる。温かさを感じる。つながりというのは、支援員の佐藤も言っていたが、2021年に、市長もホームページで、つながりを大事にされている話を書かれていたことがあった。市役所に来た時に、苗字でなく名前と呼んでいるということに驚き、すごいな大府市と思った。このようなつながりを大事にしてくれる場所を身近に感じられていることにありがたさを感じる。民間学童が、保育場所がなくなるかもしれない危機があったというのは、私は後々知った。是非、存続してほしい。実は私、子どもが横根保育園の出身で存続できなかった悲しみをとても感じている。なので、是非こういった場所の継続やつながり、何十年も続いていける場所というものが、あったらいいと思っている。

富田：昨年末に家庭に問題が起り、自分の精神状態が不安定だったときに、わんぱくの支援員に相談した。子どもに自分の精神状態が影響してしまうのが一番心配だったので、そのことも相談したら、支援員さんは気を付けてみるようにすると、支援員全員に共有して、子どもをすごく気にかけてみてくれた。そのことがなかったら、乗り越えられなかっただろうと自分では思っている。そのときにわんぱくのありがたさをすごく感じた。佐藤が言うように、つながりの大事さを感じている。支援員さんは、親の私たちにも子どもに対しても本気でぶつかってくださり、よくないなと思ったら、これは違うんじゃないかと本気で言ったり、怒ったりしてくださる。そういうことを自分の親以外の大人からしてもらうことのすばらしさを、今子どもは多分気づいてないが、大きくなったら、どれだけそれがすごいことだったかを気付くときがくると思う。そのことが自分の人生に大きな財産となると思っている。すごくいい場所なので、市長さんもよかったら、子どもたちがいるときにわんぱくに遊びにきてください。

蟹江：今日は貴重な時間をありがとうございます。先日、お忙しい中お越しいただき、どろんこクラブ始め、民営の学童保育のことをいつも気にかけてくださり、本当にありがとうございます。一昨日テレビのニュース番組で大府市の育児についての特集がされていた。保育所のテレビの取材で、市長さん始め、大府市が育児に対する意識を高くもち、取り組んでいることを実感した。住みよさランキングに上位に入る理由が分かった。今回どろんこクラブ引っ越しにつきましても、多大なご支援をいただき、今後も継続して運営できる形となり、父母一同大変感謝している。本当にありがとうございます。今後も大府市の多種多様な育児の形として、どろんこクラブ、わんぱくクラブのような、学童保育所の存続へのご支援をよろしくお願いします。

今回はどろんこクラブの父母より手紙を預かってきた。読ませていただく。

「小4夏に公設学童保育所からどろんこクラブへ移りました石濱です。

この度はどろんこクラブ引っ越しにあたり多大なご支援を賜りありがとうございます。

どろんこクラブが無事に引っ越しでき、継続できることを大変うれしく思います。

公設学童保育所は、学校敷地内にあるということで、下校後すぐに到着でき安心感があり、お

もちゃや本がたくさんあり、子どもにとってはそこから好きなものを選んで遊べ、また運動場も使用可能ということで外遊びものびのびできるといったメリットはありました。

一方で、我が家は仲が良い双子かつ上下の兄弟がいないことに加え、読書やお絵描きなど、自分のペースで一人でできるようなものや家で過ごすことが好きなこともあり、他の友達や上下関係を築くような機会が圧倒的に少なく、また、人間関係や経験が広がらないことが悩みでした。

また、なかなか親だけでは経験させてあげられないことも多いからか、やったことがないことに対しての拒否反応が大きく、何か困ったこと・経験したことがないことが起こるとショックが大きいように感じる面がありました。

コロナ禍もあり、そのような状況が一層加速するような感があった中、習い事も含め、初めてのことにチャレンジできるような環境・豊かな人間関係がはぐくめる場所を探していたところ、どろんこクラブへの転所に行きつきました。

キャンプでの火を使ってのトーチの練習・本番や、お泊り保育では自分たちで計画を立てて、事前準備をしっかり行って、班のみんなと失敗も成功も含めて料理や計画していたものをやりきること、様々な季節の行事を体験することができています。

特に、数年間、一緒の仲間・支援員のみなさんとともに過ごすことができるからこそ、じっくり話を聞いてもらったり、ほめてもらったり、よくないことを指摘してもらったりすることで人間関係のベースができ、自分をわかってもらえる・相手のことが分かるからこそ安心して経験や自信を積み重ねることができると感じています。

縦のつながりや横のつながりの中で、自分ができることを発見すること、助けてもらうこと、誰かの力になること、様々な経験をさせてもらえることに、親としては感謝の気持ちでいっぱいです。

はじめは「子どものために」と思ってどろんこクラブに移りましたが、いざ入ってみると親としても貴重な経験をさせてもらっている状況です。

キャンプなどの各種行事では準備や、当日含めて親が補助する場面があり、また、どろんこクラブ運営に関しても時間を割く場面はありますが、そのどれもが子どもたちと関わることに直結していて、ほんの一時期である子育ての期間を、同じ方向を向いて他の親御さんたち・支援員のみなさんとともに悩んだり、時にはアドバイスをもらったりすることで、自分たちだけで抱え込まずに子どもたちのことを考えられる時間はありがたいです。

また、親子で一緒に活動する場面が多いことから、親の動きぶりを子どもが目にする場面や、子どもが他のお父さん・お母さんたちの頼もしさを感じる場面があるようで、「自分のお父さん・お母さんがこんなにやってくれている」「〇〇ちゃんのお父さん・お母さんがこんなことをやってくれたよ」と、子どもたちの会話の中に親たちの話題が出できます。

また、自分の子どもだけでなく、どろんこクラブのお子さんたちの良いところ、頼もしいところにも触れることができ、一つの大きな家族のような居場所だと感じ出ています。

様々な活動を通してみんなで同じ過ごす時間がたくさんあるからこそそのことだと思います。

公設の保育所は、先生方に完全にお任せの状態で、保育の様子も帰り際に少し聞くくらいで、親としては子どものことをほったらかしにしていたように思っています。

一方で、民営の学童保育所が、親が関わる仕組みになっているからこそ、また、どろんこクラブとして残していきたい・やりたいことを自由にやることができるからこそ、子どもたちと充

実した時間を過ごせています。

経験を積んでいけば、これから困ったときのヒントになり、誰かと協力して成し遂げることは楽しいと知ることや、新たにチャレンジすることへの恐怖が以前より少しは軽くなったのではと思います。

いつも「大丈夫だよ」と背中を押してくれるどろんこクラブでの時間が、子どもたちの豊かな未来の一助になることと思ひ、これからも民営の学童保育所が安定的に継続できることを切に願います。」

引き続きご支援賜りますようよろしくお願いいたします。

岡村市長：心温まる話をたくさんしていただき、ありがとうございます。この懇談に出るようになって、民営の学童のよさがわかってきている。先ほど佐藤さんが言われたように、今大府だけでなく、日本が「子どもまんなか」、大府はそれに「ど」をつけていますが、「子どもどまんなか」の社会・地域をつくらなければいけないということで、一生懸命取り組んでいるところです。「子どもどまんなか」の地域を作るには、公だけでは到底無理です。そういう意味では、地域の方、保護者の方、大府は今民間NPOなどいろんな団体、「三つ葉」さんの話も先ほど例にしましたが、そういったところが充実している。そういう団体にいろんな事業を手伝ってもらっている。「三つ葉」さんは、不登校関係を手伝ってもらっている。今公民館で、比較的所得の低いお子様の中学生の学習支援をNPOでやっている。今中学生だけだが、小学生にも拡充して、土曜日などに公民館へ子どもが行って、NPOや大学生も入って、単に勉強だけではなく、遊び相手や話し相手にもなってという取り組みもある。そういった、いろんな団体が関わって、これから「子どもまんなか社会」、「子どもどまんなか社会」を作っていくことが大事だと思う。当然、保育園も公立も特色ある私立も必要。学童保育も同じ。公立は基本的に小学校単位で設置しているが、どろんこやわんぱくのような非常に中身の濃い民間が、選択肢として本当に必要だと思っている。皆さん方が末永く続けられるようなことを市としてもしっかり努力をしていきたいと思う。特に今回引越して大変ご苦労されたことがよく分かった。またいずれ、神田わんぱくクラブも何年後かわかりませんが、家主さんにどいてほしいと言われたら、基本的にはどかざるを得ない。そういったことも見据えて、急に言われると困るので、予め、何年ということがあれば我々も、育成できる場所がないかなど、しっかり相談に乗る。これから、相談していただければと思っている。そういう意味で、こういった意見交換は非常に大切なので、これからもいろいろ教えてほしい。支援員の先生も保護者の方の話もジーンときた。是非これからもよろしくお願いいたします。神田わんぱくクラブは一度子どもがいるときに行かせてもらいたい。（後日2月13日市長、担当課長水野係長わんぱく訪問）

◎大府市の豊かな放課後について

～公設放課後クラブの民間委託の目的～（水野係長）※資料をもとに説明

- ・民間のノウハウを活かした質の高いサービスを行うために、令和2年度から、共和西放課後クラブで民間委託を始めた。
- ・来年度、4月からは新たに大府放課後クラブも、民間委託を実施する。
- ・委託を進める大きな目的は、（1）育成の質の向上、（2）人材確保、（3）指導員が交代しない延長預かりサービス
- ・（1）育成の質の向上について

放課後クラブでは、学校や地域等との連携が、育成の観点から重要な活動とされている。公設クラブにおいては、これまでも、放課後クラブの中で、学校や地域のボランティア、例えば、お山の杉の子さんの紙芝居や豊田自動織機さんの工作教室など、地域の団体等と連携をして、児童が様々な活動を経験できるような機会を作って、育成の質の向上に努めている。しかし、企画の調整等に、時間がかかったりということで、夏休みなどの長期休業の期間中を中心に、数ヶ月に1回程度の開催になっているというのが現状。そこで、委託をすることで、民間の企画力や調整力を生かしながら、月に1回以上は、地域等と連携したイベントを実施して、児童の毎日の育成に変化を与え、質の向上を図っていくということを考えている。

・ (2) 人材確保について

国の基準は、児童40人に対して、指導員が2人の配置ということになっている。本市の場合は、児童の人数や支援が必要な子たちの状況にも応じて、国の基準より手厚い基準で配置をしている。近年、人口の増加や共働き世帯の増加の影響を受けて、年々、入所の児童数が増えている状況。特に夏休みの時期だけ入所したいという、子どもさんも多くいる。その増加に伴って、必要な指導員の配置をする必要がある。その点についても、民間のノウハウを活かしながら、需要の増加に対応できるような、指導員の確保を確実にしていきたいということで考えている。

・ (3) 指導員が交代しない、延長預かりサービスについて

市において、通常午後7時までの開所時間にしているが、どうしても午後7時までにお迎えが間に合わないという家庭に対しては、午後8時まで延長預かりサービスを実施している。その部分については、直営ではなく、NPO法人のさわやか愛知さんに、委託をして実施をしている。午後7時以降は、指導員がどうしても交代をしてしまうという状況がある。委託をすることによって、クラブを受託した事業者が、延長預かりサービスも引き続き実施するので、午後7時以降も指導員が交代することなく、預かりを行うことができるということになる。

・ 既に民間委託している共和西放課後クラブの状況を紹介する。毎年、児童や保護者に対してアンケートを取っている。毎月行われるイベントが大変好評で、イベントが楽しいといった意見をたくさんもらっている。職員も不足することなく配置をされている。延長の預かりサービスをする場合も、同じ事業者がすることができている。共和西放課後クラブで実施をしたイベントとして、地域のマジックや太極拳をやっている団体さんに来てもらってイベント行っている。市の直営のクラブにも紹介してもらって取り入れてということも、今年度行っている。委託事業者さんがやっているいい取組みは、直営のクラブでも取り入れて、全体的に質の向上を図っていきたいと考えている。

◎意見交流

久野：(3) 延長預かりサービスが同じ方になるようにというのは知らなかった。とてもいいことだと思う。私からは3点、お聞きしたい。月1度以上のイベントということで、地域の方とも連携しながら様々なことがされているということで、とてもいいと思ったが、そのイベントは、何をねらって行われているのか。私たちの民間学童保育だと、日々の生活の中に行事が入ってきて、子どもと行事を作る。その中で子どもをどうやって育てていこうかなということを考えながら、行事設定しているところが大きい。民間委託された学童でのイベントねらい、位置づけをお

聞かせ願いたい。

2点目、「ホームックス」さんが、共和西でまず受託されて、今度は「明日葉」さんが選ばれた。いくつかの業者の中からこの2つが選ばれたというのは、やはりこの業者さんがとてもいい部分があったと思う。どういう内容の良さがあってこの2つが選ばれたのか。

3点目、共和西が委託になって、数年後にまた「明日葉」さんに委託ということで、これからどういいうビジョンで、大府市の放課後クラブ、民間委託が進んでいくのか。

水野係長：月1回以上のイベントのねらい、目的として、子どもたちが放課後クラブで過ごす中で、少しでもいろんなことを、普段体験できないようなことを体験できるようにして行きたいということがある。マジックも太極拳も、なかなか普段触れる機会もない。イベントとして、地元至学館大学の学生さんに来てもらって一緒に遊ぶということもイベントとしてやっている。普段の育成のクラブで過ごす中で、体験できないようなことをたくさん体験できるようにしていきたいということで取り入れている。

2つ目、事業者さんの選定にあたっては、それぞれの事業者さんからプレゼンテーションをしていただき、審査をして決めている。市の考えている放課後クラブの進め方、子どもたちの自主性を養うことができ、子ども同士異年齢で交流ができる、そういった目的に沿っている運営を提案したところを選んでいった。

3点目、これからどういいうビジョンで進んでいくかというのは、まずは共和西で委託化。4月から大府を委託でやっていく。共和西、大府と違う事業者さんなので、それぞれの事業者さん、また、直営も含めて、お互いいいところを取り入れながら、運営をしていく。大府と共和西と市とで進めていき、今後はまた考えていく。

井村：大府が委託になった理由はなんですか。

水野：できるだけ多くの子どもたちに委託の効果、メリットを感じてもらえるようになったらいいと考えている。そういった時に、大規模なクラブとして、4クラスある大府を委託にした。

佐藤：学童保育の指導員をやっていて、とても大事にしたいことがある。子どもたちは、かけがえない存在で、子どもの心情、気持ちをまんまかにして考えて、学童保育はどうあるべきかと指導員としては思っている。子どもは、元気な時も元気じゃない時もある。いっぱいおしゃべりしたいとき、そっと静かにして欲しいときもある。畳の部屋があるのでごろんごろんして遊んだり、「すみっこぐらし」ではないが、すみっこにいて漫画を1人で読んでいたりということもある。そういうなかで、子どもは、癒しの時間をもっているんだとか、クールダウンしているな、ということを感じる。その子どもの様子を見ながら、働きかけ、声かけをしている。子どもの中には、寂しさをもっていて、色々な家庭の事情はあると思うが、お母さんに早く会いたい、お母さんといたいと、訴える子も今いる。だから、寄り添うようにしている。子どもが30人いれば、30人の気持ちがある。学童保育は、子どもたちがそんな姿を見せてくれる、そういうものを出せる、素直な自分を出せる、家庭的な雰囲気が必要だと思っている。指導員も父母も子どもに寄り添い、いい時間を学童保育で過ごしてもらえようようにしたい。子どもが自分の人生を自分らしく生きていく、そういう力を育む場となるように努力したい。子どもが幸せになれば、大人も幸せな状態になっていくのだろうと思うので、そういう学童保育を創りたいという思いがある。そして、そういう気持ちを共有したい。公設であれ民間であれ、大府市でそういう学童保育をみんな創っていきましようという部分を僕は押さえたいと思っている。イベントも、みんなのつながりができていく、目標をもってやっていく、そういう気持ちが必要。学童保育で何を大事に

するかなということ、指導員の立場で述べさせていただいた。

◎おわりの言葉（宮島教育長）

今日はありがとうございます。佐藤支援員さんの言われた気持ちはよく分かる。人間が育つというのはどういうことなのか、その過程で大人たちはどう関わっていったらいいのか、そこをどう受け止めて日々の生活をしていくか。私どもは、これまでずっと、工夫改善して、いろんなイベント、行事を増やしてきたが、育ちとの関連性については、弱いなど、改めて今日考えさせられた。今後改善していく、1つの大事なポイントになった。公設も、たくさんのお子さんをお預かりして、年々色々工夫をし、また、民間の活力も入れてやってきているが、相変わらず私の頭の中で、1番どろんこさん、わんぱくさんにはかなわないなど思うのは、父母会の力だと思う。皆さんが、本当に同じ方向を向いて支援員さんたちと、共同歩調で、子どもたちをどう育てていくかという取り組みの、その空気というか、そういう器は、なかなか、公設ではつukれない。むしろこの頃、非常に、人と人とのつながりが難しい。本来なら、親さんたちが、皆さん、手を繋いでつながってってくれれば、そこに子どもたちのいさかやけんかが起こっても、親さんたちがつながっていると、こういうもんなんだと、この子にはこの子の言い分があって、あの子にはあの子の言い分があってというのが分かり、やがて、収束に向かっていくんですが、今、非常に難しい時代になってきました。「うちの子をどうしてくれるんですか」、「そうやってうちの子を学校が悪く言うんですか」、というようなやり取りが増えてきた。かなり教育現場はおわれるようなところも抱えている。けれど、それも、1つ1つ解決して、前に進むしかありません。学校教育も1つの大きな柱ですが、公設の学童の方も、1つ1つ解決しながらですが、1番いいのは、やはり、親さんたちが、同じ方向を見て、つながってくださることだなと、毎回ここでお話を聞くと思っています。今日もありがとうございます。

最後、情報提供として。ご存知かもしれませんが、子どもたちの授業後の、運動や文化活動を大事にしたいと長年思って大府市は取り組んできた。けれど、働き方改革などいろんなことがあり、学校の課外活動は、大府の自慢だったが、令和3年度をもって、全て終了した。それではいけないということで、今取り組み始めているのが、学校の職員を使わずに、市民の方々の援助をいただいて、子どもたちの授業後の豊かな活動をつくらうということで、本年度も試行をしている。規模の小さな大東小学校と、大きい共和西小学校で、1週間の中に運動プログラムと、金管楽器の指導を、試行でやっている。大変好評で、お子さんによっては、学校が終わったら放課後の方へただいまと言って、行ってきますと言って運動や金管の取り組みに行き、終わるとまた放課後にただいまと帰ってくる。来年度は拡大して、小規模な学校である神田小学校と大きな学校の石ヶ瀬小学校を加えて、これで4校になる。なかなか金管の指導者が見つからないため、また新たな提案をさせていただこうということで、石ヶ瀬小学校の方では、バイオリンを入れていく。運動とバイオリン。神田小学校では、運動とプログラミングを入れていく。小学校4年生以上ということで、来年度、拡大してやっていく。こちらの方も、ご理解いただいで、応援していただけたらと思う。今日もまた、いいお話を聞かせていただきました。どうもありがとうございました。